

2024年度 点検評価改善報告書

[委員会別業務評価]



西南女学院大学

西南女学院大学短期大学部

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称		人事委員会			
大短委-2024		担当部局等		部局等	事務局	課	庶務課
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学教員及び助手選考規則第2条					
構 成	委員長	林 裕二	副委員長	木村 茂喜	末嵜 雅美	構成員数	
	委 員	梶原 江美	木村 茂喜	岡部 明仁	塚本 美紀		
		林 裕二	末嵜 雅美			6	
委員会の役割に関する事項（概要）	■あらかじめ大学評議会の議を経て、学長によって定められた人事計画の方針に則り、採用候補者及び昇任候補者を選定する。■あらかじめ大学評議会の議を経て、学長によって定められた人事計画の方針に則り、特別契約教員人事を取扱う。						
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	採用人事	適正な人材の確保（後任補充）			上程	教授会・別科会	
	昇任人事	公正な昇任人事の実施			上程	教授会・別科会	
	特別契約教員人事	適正な人材の確保（新規、更新）			上程	教授会・別科会	
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	円滑な委員会運営						
	採用・昇任選考作業						
	採用予定者との連絡調整						
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	採用人事	決裁・意見・委託・上程の別		上程	教授会・別科会	
	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■あらかじめ大学評議会の議を経て、学長によって定められた人事計画の方針に則り、採用候補者を選定し、教授会に上程する。 ■次期の教育研究体制に支障が出ないよう、適正な人材を確保したい。 ■人事に係る意思決定過程を勘案し、適切な人事作業日程を策定する。					
		↓					
	D 実 施		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか ■人事案件ごとに採用選考委員会を組織し、公募要項の作成、応募者資格・業績審査、面接、その他リサーチを実施のうえ、採用候補者を選定し、教授会に上程した。 ■採用選考委員候補者の選出においては、専門分野等を考慮したうえで選出根拠を明確にすることを申し合わせた。				
		↓					
	C 評 価		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■人事案件9件(10名)のうち、採用候補者として7件（8名）を上程した。 ■委員会運営（日程調整、選考・評価作業等）は、人事委員と採用選考委員の連絡調整が適切に行われる中で進められた。				
		↓					
	A 改 善		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■当該学科人事委員は学科及び採用選考委員と適切に連携を図る。				
		↓					
	次年度見通し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■人事委員が学科及び採用選考委員と適宜コミュニケーションを図り、選考活動の誠実性と有効性を担保できる選考を行う。				

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]		昇任人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会
P ↓ D ↓ C ↓ A	計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■あらかじめ大学評議会の議を経て、学長によって定められた人事計画の方針に則り、昇任候補者を選定し、教授会に上程する。 ■昇任人事申請資格者に対して、大学評議会の人事方針に基づく審査基準等を明確に示し、公正に人事が行われるようにしたい。 ■人事情報の適正な管理を行う。			
	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■人事案件ごとに昇任選考委員会を組織し、教育活動・研究業績・社会貢献・大学への貢献・組織倫理の5つの視点からの審査のうえ、昇任候補者を選定し、教授会に上程した。 ■昇任人事に関する申し合わせ事項を作成し、教授会及び別科会で説明を行い、大学評議会の人事方針に基づく審査基準等を周知した。			
	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■昇任申請5名のうち、昇任候補者として5名を上程した。 ■選考の結果について、候補者の昇任可否に関する委員会としての根拠を明確にし、教授会の場や対象者に対して説明責任を果たせる態勢を整えている。			
	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■昇任人事においては、学科によって教育研究以外の業績の評価を重視する場合があるため、事前に昇任人事申し合わせ事項の精査・検討を十分に行うことで、各学科の特性をいかした、スムーズな昇任選考に繋げていく必要がある。 ■当該学科人事委員は学科及び昇任選考委員と適切に連携を図る。			
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■人事委員が学科及び昇任選考委員と適宜コミュニケーションを図り、選考活動の誠実性と有効性を担保できる選考を行う。				
項目[事案]		特別契約教員人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会
P ↓ D ↓ C ↓ A	計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■大学評議会による特別契約教員に係る人事方針に基づき、本学の「特色ある教育」の推進と次期の教育研究体制の充実のために、候補者の職位（案）を適切に判断し、教授会に上程したい。			
	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■新規の案件については、候補者から提出された個人調書及び教育研究業績書をもとに該当する職位について審査を行った。 ■更新の案件について、大学評議会の人事方針に基づき、当該学科長より提出された推薦理由書等を確認し、教授会上程への手続をとった。			
	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■新規案件は2件（2名）であり、候補者として2件（2名）を上程した。個人調書及び教育研究業績書の審査により、適切な職位を案として確定させた。 ■更新は6名であり、候補者として6名を上程した。			
	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■今年度から、特別契約教員の採用願（継続願）の内容について、各学科で異なっていた様式を統一した。			
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■人事委員が学科及び採用選考委員と適宜コミュニケーションを図り、選考活動の誠実性と有効性を担保できる選考を行う。				

委員会の運営・通常 の審議経過等に係る計画/ 実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■人事案件ごとに日程管理を行い、法人本部への送達期限を逸することが無いようにしたい。 ■各人事案件を並行して行い、会議の回数を減らし、委員及び関係部局の負担を軽減したい。 ■資料等作成（複製）のためのコストを軽減したい。		
	↓	↓		
	D 実施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか ■昼休み時間帯を活用し、所定の勤務時間外に委員会を開催することを極力避けた。 ■人事案件ごとの選考日程は、選考委員会に裁量を与え、十分な日程を確保した。 ■業績資料の閲覧は、書類選考後とし、複製に係る物的・人的コストは低減した。		過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	↓	↓		
	C 評価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■採用面接を除き、委員会は所定の勤務時間内に開催された。 ■各委員及び担当部局は、スケジュール調整に柔軟に対応した。		結果の 評価 □達成 ■前進 □維持 □停滞 □後退
↓	↓			
A 改善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■採用選考の当該学科人事委員による評価表取りまとめに際し、委員会としての統一的取扱いの検討は継続を要する。			
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■採用選考の評価表様式について、実態をふまえながら引き続き改善を検討していきたい。		
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に 状況等の記載を要する事項	項目[事案]	円滑な委員会運営	決裁・意見・委託・上程の別	—
	項目[事案]に係る規程上の根拠	委員会及び執行機関の役割に関する規程第2条、第5条 ■委員長と担当部局は連絡調整を密にし、特に日程管理の観点から意思疎通を図った。また、進行表を作成し、委員長と共有することで、委員会の円滑な運営に努めた。 ■人事案件に係る学科人事委員は日程、審査、委員会前の事前打ち合わせなど遺漏なく行い、担当部局と学科との仲介者として役割を果たした。		
	項目[事案]	採用・昇任選考作業	決裁・意見・委託・上程の別	決裁
	項目[事案]に係る規程上の根拠	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部教員及び助手選考規則第6条 ■採用選考委員会は、手続においても、具体的選考作業においても、適切に公正に機能した。		
	項目[事案]	採用予定者との連絡調整	決裁・意見・委託・上程の別	—
	項目[事案]に係る規程上の根拠	— ■採用承認後の採用予定者との連絡調整について、当該学科の人事委員は学科長と連携して採用予定者と然るべく接触を図るとともに、担当課として法人本部と連携を図って対処した。		
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	教務				委員会
大短委-2024			担当部局等	部局等	教務部	課	教務課	
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部会議規則第39条、教務委員会規程						
構 成	委員長	クリステン・サリバン	副委員長	天本 理恵		阿南 寿美子		構成員数
	委 員	高橋 甲枝	通山 久仁子	西原 真弓		池口 功晃		
		前田 幸	隅田 直孝					9

委員会の役割に関する事項（概要）	■教育の質の維持、向上及び学生の修学上の支援を行うために必要な以下の事項を審議する。 1. 教育課程の編成及び授業に関する事項 2. 学生の休学、復学、退学、卒業及び課程の終了に関する事項 3. 転学部・転学科に関する事項 4. 研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生に関する事項 5. 行事日程に関する事項 6. その他教務に関する事項					
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	大学教養教育課程の改正について	学則・履修規程の改正について		上程	大学評議会	
	大学学則、履修規程の改正について	人文学部専門教育科目の改正について		上程	大学評議会	
	大学卒業延期制度について	卒業延期制度に関する規程の制定について		上程	大学評議会	
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	学生の動向について	休学、退学、復学、除籍、復籍の審議		決裁	教授会報告	
	転学部・転学科について	受入れ可否審議		上程	教授会	
	非常勤講師候補者の委嘱について	非常勤講師候補者の委嘱について審議		上程	非常勤講師候補者選考会議	
	卒業判定について	前期末、年度末の卒業判定についての審議		上程	教授会	
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	教養教育課程の改正について	決裁・意見・委託・上程の別		上程	大学評議会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■大学の教養教育について全学的な検討を行う教養教育小委員会を設置したことを受け、2025年4月からの教養教育課程の改正をめざす。				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■教養教育小委員会での検討を重ね、教務委員会での審議を経て教授会及び大学評議会に上程した。				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■2024年5月の理事会で承認され、2025(令和7)年4月1日から施行、2025(令和7)年度入学生から適用することとなった。				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■総合人間科学の新規カリキュラムを進行するにあたり、学科間の連携や旧カリキュラムとの読み替えなど、慎重な運営を行う。				
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
次年度見通し						

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	人文学部専門教育課程の改正について	決裁・意見・委託・上程の別	上程	大学評議会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■人文学部(英語学科・観光文化学科)の専門教育科目について、2025年4月からの教育課程の改正をめざす。			
	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■学科ごとに検討を重ね、教務委員会での審議を経て教授会及び大学評議会に上程した。			
	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■2025年3月の理事会で承認され、2025(令和7)年4月1日から施行、2025(令和7)年度入学生から適用とした。			
	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■新旧混在する教育課程の運営を丁寧に進める。 ■改正した教育課程の編成について、完成年度まで継続した検証を行う。			
	次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し			
	次年度見通し				
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	卒業延期制度について	決裁・意見・委託・上程の別	上程	大学評議会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■こ卒業要件と国家試験受験資格取得要件が異なる学科において、国家試験受験資格を得ずに卒業要件を満たした学生に卒業以外の選択肢が与えられていない現状を改善し、学生が柔軟に学修計画を立てられるようにしたい。			
	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■国家試験受験資格の取得前に卒業要件を満たした学生が希望に応じて卒業を延期できる仕組みを整備し、あわせて、留学を希望する学生が卒業を延期しながら学修を継続できる制度を制定した。			
	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■施行期日を2025年1月1日としたことで、2024年度3月卒業の学生から制度を適用できた。			
	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■卒業延期制度の周知と学生の柔軟な学修計画の推進を図る。			
	次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し			
	次年度見通し				

委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■第1回目の教務委員会で今年度の審議・検討事項についての確認をする。 ■アセスメントチェックを継続して実施し、内部質保証体制を確立する。			
	↓					
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか ■今年度の審議・検討スケジュールに従い、滞りなく実施することができた。 ■教学マネジメント会議の方針のもと、教務委員会で教育課程レベル及び科目レベルのアセスメントチェックを実施した。			過程の 評価
	↓					
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■機関レベルのアセスメントチェックによって、教務委員会で実施した教育課程レベル及び科目レベルのアセスメントチェックが検証された。			結果の 評価
	↓					
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■特に教育課程レベルのアセスメントチェックが、学科の教育の改善に繋がるよう、実施内容などをさらに検討していく。				
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					
	次年度 見通し					
委員会が取り 扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]	休学・退学防止のための学科における取り組み状況	決裁・意見・委託・上程の別	意見		
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	■各学科が2023年度退学防止のための取り組みを作成し、教務委員会で共有している。2024年度は、FD・SD研修会においても「退学防止」について取り上げ、効率的・効果的な取り組みについて教職員の理解を深めた。					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	学生委員会			
大短委-2024			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課
委員会設置の根拠（規程等）		「学生委員会規程」第1条					
構 成	委員長	高崎智子	副委員長	アンドリュー・ジッツマン		篠木賢一	構成員数
	委 員	石井美紀代	杉本有紗	永原真奈見		アンドリュー・ジッツマン	
		神崎明坤	篠木賢一	高崎智子		藤川信幸	8

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の学業指導及び生活指導に関する事項、学生の課外活動に関する事項、奨学生に関する事項、授業料減免に関する事項、学生の厚生施設及び厚生事業に関する事項、学生の保健管理に関する事項、その他厚生補導に関する事項について審議する。		
------------------	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	学業奨励奨学金の募集・選考	応募者47名、採用者27名	意見	学長
	大学スポーツ奨学生（特別奨学生）の選考・更新	新規採用20名、修学指導1名	意見	学長
	学生生活に関する実態調査	2021年度入学（2024年度4年生）時との経年変化分析		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	P 計画			
	↓	↓		過程の 評価
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか		
	D 実施			☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
	↓	↓		結果の 評価
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か		
	C 評価			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
	↓	↓		
		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと		
	A 改善			
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	P 計画				
	↓	↓			過程の 評価
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	D 実施				
	↓	↓			結果の 評価
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
	C 評価				
	↓	↓			☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
	A 改善				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画					
↓	↓			過程の 評価	
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				
D 実施					
↓	↓			結果の 評価	
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
C 評価					
↓	↓			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退	
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
A 改善					
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	P	計 画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか		
	↓		↓		
	D	実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか		
	↓		↓		
	C	評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か		
	↓		↓		
	A	改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと		
			次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
		次年度 見通し			

委員 会 が 取 り 扱 っ た 項 目 [事 案] の うち 特 に 状 況 等 の 記 載 を 要 す る 事 項	項目[事案]	高等教育の修学支援制度	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	昨年に続き、継続して支援を受けるためには、一定基準の学業成績を収め、適格認定を受ける必要があるため、成績不良者に対しては個人面談等により学修指導を強化するように、学生委員を通じて周知を図った。				
	項目[事案]	学生生活に関する実態調査	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	2023年度の調査結果及び2021年度入学者の1年次と4年次の調査結果を踏まえた経年比較、学生の学習時間・学修行動の把握の3点について、学科会等で分析いただき、教育活動の見直しについて検討した結果の提出のお願いを行った。目的は、私立大学等経常費補助金「教育の質に係る客観的指標調査票」の点数獲得のためである。				
	項目[事案]	2025年度オリエンテーション	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	大学のオリエンテーション期間を4日から3日にして欲しいと庶務課、教務課から依頼があった。コロナ以降のオリエンテーションの基本方針を押えつつ、3日間のオリエンテーションを実施することになり、各学科への説明及び協力を得ることができた。				
	項目[事案]	2024年度大学祭	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	10/26（土）、27（日）の大学祭に向けて、大学祭実行委員会の学生を中心に準備を進めていることを報告。今年度は小倉北警察署や北九州市消防局、JALの展示等、はじめての企画に挑戦した。学生委員の先生方には、当日の警備をお願いした。				
項目[事案]	アドバイザー制度	決裁・意見・委託・上程の別			
項目[事案]に係る規程上の根拠					
学生部長より、各学科では、日頃よりアドバイザーとしての学生支援を実施していただいている。アドバイザーの支援内容の見直しや、不足部分については、対応をお願いした。また、入学式後のオリエンテーション時に、アドバイザー制度についての資料配布やPPTを使用して保護者への周知がお願いされた。					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称		就 職 委員会		
			担当部局等	部局等	学生	課	就職課
大短委-2024							
委員会設置の根拠（規程等）		就職委員会規定					
構 成	委員長	高崎 智子	副委員長	高橋 幸夫	藤田 稔子	構成員数	
	委 員	高崎 智子	吉原 悦子	中川 美幸	山田 志麻		
		ブラウン馬本鈴子	高橋 幸夫	藤田 稔子	坂田 美登里	8	
委員会の役割に関する事項（概要）		・ 学生の就職指導に関する事項、学生の就職斡旋に関する事項について審議する。 ・ 卒業生の就職先アンケート、卒業生アンケートについて就職委員から学科での検討事項として取り組む。					
年度重点項目 [事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	低学年からの就職意識の醸成	英語・観光2年生と企業との「社会人交流会」実施					
	学内合同企業説明会の実施	学生中心に企画運営し、参加者増加を目指す					
	卒業生等アンケートの実施	就職1年目の就職先、入職後3年目の卒業生を対象					
年度重点項目 [事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	各学科対象の就職ガイダンス再構築	保健福祉学部のガイダンス開催+ES対策、面接					
		対策を参加しやすいタイミングで開催					
	人文学部対象のガイダンス開催方法	3年生前期から学科ごとに開催					
	国家試験説明会・受験申込みの簡素化	すべての国家試験申し込みを説明と同時に記入					
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関する事項	項目[事案]	低学年からの就職意識の醸成	決裁・意見・委託・上程の別				
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ・ 英語「現代ビジネス人材論」観光文化学科「キャリアデザイン論Ⅰ」履修者2年生を対象に「社会人交流会」を実施 ・ 幅広い業界企業から学生に「仕事」「会社」「働き方」などについて話してもらう ・ 低学年の学生が前向きに幅広い視野をもって、就職活動に臨める環境を整える ・ 就職活動で必要なスキルを活動を通して体験、学ぶ					
		↓					
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ・ 来校いただいた企業を中心に内容説明した上で協力要請 ・ 全3回実施（1日5社・合計15社が参加）・授業の中で事前講義⇒グループワーク⇒体験「企業からの話」⇒内容をグループごとにpptを作成し、発表する ・ 社会人との面談から学び、より多くの業界・企業・仕事について学ぶ・発表の準備、実施からアウトプットの重要性を学ぶ					
		↓					
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ・ 学科を超えて協力できた ・多くの学生が社会人に質問するハードルを乗り越えた ・ 対面でのコミュニケーションのとり方（表情・相槌・言動）を学んだ ・ グループワークのあり方、プレゼンのまとめ方などを習得した・発表会に初めて参加企業を招待し9社が参加・企業参加者からプレゼンに対するフィードバックをいただき、学生の励みとなった					
		↓					
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ・ 企業選定はできるだけ早期から取り組んだが、日程決定を早々にして招待することを心掛けたい ・ 発表会実施にあたり、司会者のフォローをしすぎたため、もっと学生に考えさせる取り組みが必要 ・ 発表の方法、pptの作成方法もあわせて指導することが必要 ・ スライドを使った発表について、事前指導がさらに必要だった					
		↓					
	次年度見直し	n ・ 5年取り組んできたが、学生の成長を感じる内容だと考える ・ これまで課長案件として実施してきたが新就職課長にも継続実施する内諾を得た ・ 新就職課長が今年度中に参加して実施方法などを申し送ることができた ・ 3月末までに2025年度後期に「社会人交流会」に参加してくださる企業選定を開始した ・ 次年度の人文学部2年生の学生数が80名（予定）であるためグループ編成、企業数を増やす必要がある					

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	学内合同企業説明会の実施	決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ・人文学部学生を中心に学内合説スタッフの活動を広報し、この活動に参加した学生が就活時の”核”となることを目指す ・就職活動をスタートする3年生、これから企業・業界を学ぶ低学年学生双方に有意義な説明会を目指す ・学内合説に参加した企業について「知る」と同時に大学とのつながりを深めることが目標			
↓				過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ・例年2月に開催していたが12月に前倒しすることを決定・7月に学生スタッフ募集説明会開催 ・短期募集となったため1・3・4年で総勢10名の学生がこの活動に参加 ・水曜日昼休みにミーティング（休中はWEB開催）して準備 ・1企業1教室1学生として開催 ・人文学部の協力を得ることができたため参加人数が大幅に増加した			☒ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓				結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ・学生スタッフの成長がみえた ・3・4年生の存在が活動をスムーズにできた要因だった ・人文学部3年生のアンケートを参考に企業選定したが、最終的に参加していただいた企業への学生参加者数に差があった ・12月開催は今後も継続していくことが望ましい・学年不問で学生スタッフを募集したことは良い影響につながった			☐ 達成 ☒ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ・今年度と同様な形式、時期に学内合説を開催する方向が良いと考える ・それに伴い、学生スタッフ募集説明会は前期早々に開催する ・これまで学生スタッフ数に応じて招致企業数を決定していたが、検討余地あり ・感染症対策として1教室1企業で開催したが、広い教室に複数社を招く方法に戻してもよいかもしれない ・保健福祉学部の学生が参加しやすい方法について考える必要性あり			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ・年度初めに学生スタッフ募集説明会を開催するにあたり、就職委員などの協力を得て、授業中などに概要を伝える等を考えるとよいと思う ・これまで課長案件として取り組んできたが、新課長＋就職課スタッフという体制で臨むことを提案したい			
項目[事案]	卒業生等に関するアンケートの実施	決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ・「就職受け入れ先から見た西南女学院大学卒業生の評価に関するアンケート調査」「卒業生アンケート」を実施する。 ・卒業生が社会でどう活躍し、どんなことに苦労しているのかを知り、在学生支援に活かしていく。			
↓				過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ・就職受け入れ先は卒業後1年目の卒業生の状況を調査。就職した1年目12月にアンケートを郵送で依頼。特に北九州市近隣の事業所には、課長が企業訪問をしてアンケート回答のお願いと卒業生の状況を確認し、次年度の求人について話を聞いた。 ・卒業生アンケートは昨年度と同様、就職3年目の卒業生の就職先に郵送。			☒ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓				結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ・卒業生からの回答数を増やすため、昨年度から実家ではなく就職先にアンケートを郵送している。さらに今年度は回答方法をgoogle Form、紙面、FAXの3つからgoogle Formのみの回答としたことで、郵送代を約10万円抑えることができた。加えて回答状況を逐一確認できるようになり、未回答の卒業生に対しては就職課から卒業生の携帯番号にメッセージ＋アンケートURLを添付した。 ・回収したアンケートは各学科就職委員に情報提供し、学科で共有検討材料にしていた。 ・今年度から就職課公式LINEへの登録を進路報告届を就職課に提出する際においており、登録率が増えた。			☐ 達成 ☒ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ・来年度からは就職課公式LINEを使用して卒業生にアンケートを送付する。これによりさらに郵送代が抑えられる。 ・LINEから卒業生へ情報提供できるため、次年度は卒業生全体、それ以降は学科別に情報発信することが可能となる。各学科からの希望調査などを卒業生へ発信しやすくなる。公式LINEをうまく活用していくことが望ましい。			
次年度 見通し	・就職課公式LINEを使用することにより、回答者数が増え、調査の精度が上がることを期待している。 ・卒業生アンケートの自由回答欄に関しては、教職員個人が特定できる内容もあり、学科に確認をしたうえで、報告書を作成する。			

委員会の運営・
通常の審議経過
等に係る計画/
実施/評価に関
する事項

P	↓	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ①看護師・保健師・助産師②社会福祉士・精神保健福祉士③管理栄養士 各国家試験の願書配布、願書記入など一連の手続きを効率よく実施する。								
		D	↓	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ・対面で願書記入会を開催する際、事前準備することを「就職課：各学科クラスルーム」に掲載し、願書記入。その場で自己確認し、記入漏れやミスを確認することですぐに訂正し、願書を提出させる。 ・看護師等の受験票が大学に届くが、今年度はコロナ前のように教室に学生を集めて配布できた ・学生に届く社会福祉士等の受験番号を就職課に提出させる	過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施					
				C		↓	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ・その場で確認し願書提出するため、効率もよく間違いも減った。 教務課の協力を得て、自治体への書類送付・返送の時期を前倒しすることができた。 順調に国家試験の事務手続きを終了できた。 ・受験番号の全員把握に苦労している（福祉学科）	結果の 評価 □達成 ■前進 □維持 □停滞 □後退		
							A		↓	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ・国家試験に関する配慮申請について、できるだけ早く細かく学生とやり取りすることを心掛けたい ・就職課内で国家試験の手続きを誰でも主担当として経験できるよう考えていきたい
										次年度 見直し

委員会が取り
扱った項目[事
案]のうち特に
状況等の記載を
要する事項

委員会が取り 扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	大学宗教委員会			
大短委-2024			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課
委員会設置の根拠（規程等）		「大学宗教委員会規程」第1条					
構 成	委員長	東彩子	副委員長				構成員数
	委 員	布花原明子	金谷めぐみ	渡邊和美	神崎明坤		
		東彩子					5

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の宗教指導に関する事項、その他宗教に関する事項について審議する。				
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	大学・短期大学部チャペルの企画・検討・運営	奨励者の選定、学生指導等			
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	クリスマス募金	学内クリスマス募金のための募金活動の企画、検討、実施			
	次年度のクリスマス礼拝会場の検討	経費等を含めた次年度礼拝会場の検討			
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	クリスマス募金	決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 2024年度クリスマス募金については昨年の献金先に加え、能登半島地震被災者を支援する為に献金先が、宗教委員会委員長より提案され、了承された。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか 2024年12月19日（木）にソレイユホールにおいて、「クリスマス礼拝」を実施、礼拝当日及び募金期間に多くの学生と教職員からの募金が多かった。2025年1月23日（木）の宗教委員会において、能登半島地震被災者に対しての募金として「北陸学院キリスト教センター」への募金を確認され、実施されることになった。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 能登半島地震は、地域性や気候等、様々な要件により、他の地域の地震被害の復旧、復興に比べて遅れている状況が報道されている。少しでも多くの人の支援が今後必要と考えられる。今回の宗教委員会委員長の提案によって、我々教職員、学生に改めて「能登半島地震」を心に留め置く機会となった。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 2025年度以降についても、「能登半島地震被災者の支援」を引き続き実施していければと考える。またそれ以外にも新たに支援が必要な状況が生じた時は、柔軟に対応していく。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。			
					過程の評価 ■順調 □遅延 □未実施
				結果の評価 ■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退	

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	次年度のクリスマス礼拝会場の検討	決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 前年度より経費節減の理由により「クリスマス礼拝」を実施している「ソレイユホール」の見直しを検討していたが、2025年度は、「ソレイユホール」の改修工事の為、使用できないことになり、急遽会場を探すことになった。			
↓	↓			過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか 金谷副委員長の提案により「ウエル戸畑（大ホール）」での「クリスマス礼拝」を検討することになった。11月19日（火）に金谷副委員長、村瀬宗教主任、学生課（秋好）の3名で、「ウエル戸畑」に打ち合わせに行き、12月1日（日）に抽選をすることになり、抽選の結果、使用可能となり、着手金を支払った。			
↓	↓			結果の 評価 ■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 「ウエル戸畑（大ホール）」は、戸畑駅からも近く、学生や教職員の移動も便利である。また、懸念されていた経費についても「ソレイユホール」より安い。これらの面は大変良いことである。ただ、パイプオルガンが無い為、例年とは違う形を模索する必要がある。			
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 「ウエル戸畑（大ホール）」は、抽選があるため、競争相手がいた場合、使用できない可能性もある。そのため、もし、使用できない場合についてどうするのか、「ソレイユホール」に戻すのか、マロリーホールを使用するのか、等を検討する必要がある。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 「A 改善」で記載してた内容について、次年度も検討を行っていく必要がある。			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
↓	↓			過程の 評価 □順調 □遅延 □未実施
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか			
↓	↓			結果の 評価 □達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたい のか キリスト教に基づく女子 教育に沿った全学的な チャペルの計画を策定 する。
	↓		↓
	D	実施	計画（P）を達成するた めに「誰が」「何を」「 どのよう」に行ったか 外部講師の人選について 、宗教主事は、院長、学 院宗教主任、学長に内諾 を得て、大学宗教委員 会で意見を聴取し、承諾 を得た。また、クリスマス 礼拝については、地域の 方々や学生の保護者にも 開放した。
	↓		↓
	C	評価	実施（D）によって計画 （P）は達成・前進した か / 達成・前進してい ない理由は何か チャペルでの外部講師 の話に多くの学生が耳を 傾けた。特にミッション デーについての、アン ケートでは、外部講師 の話に「たいへん共感 した」「共感した」が 圧倒的に多く、多くの 学生の心の中に響いた ものがあったように思 える。
	↓		↓
	A	改善	評価（C）をふまえて、 次年度に行うべきこと / 行うべきではないこ と 今後も学生が共感でき る外部講師を多く、チャ ペルに招聘できるように 、工夫していきたい。
		次年度 見通し	次年度における計画（P） の修正・変更・廃止の 見通し 東委員長が退職される。 これまで東委員長の主 導で、上手く委員会、 チャペル、クリスマス 礼拝が実施されてきた が、今年度で退職され る。次年度は、宗教委 員会全体で、東委員長 のような運営ができる ように努力しなければならない。

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	研究紀要 委員会			
大短委-2024			担当部局等	部局等	図書	課	
委員会設置の根拠（規程等）		紀要規程第4条、研究紀要委員会規程					
構 成	委員長	ブラウン馬本鈴子	副委員長	木村宏和	笠 修彰	構成員数	
	委 員	木村政伸	水貝洵子	木村宏和	ブラウン馬本鈴子		
		笠 修彰	垂水典子				
6							

委員会の役割に関する事項（概要）	■研究紀要原稿の募集に関する事項、研究紀要の編集に関する事項、研究紀要の刊行に関する事項、研究紀要の発送、整理及び保管に関する事項を審議する。					
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	紀要編集・発行について		紀要編集・発行についての確認		決済	
	紀要の発行部数について		リポジトリがあるため、冊子の配布を中止		決済	
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	紀要編集・発行について	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2018年度から試行期間として変更した日程で、引き続き編集作業を進める。4月に原稿募集を行い、教員が余裕をもって論文執筆や査読後の修正にあたることのできるスケジュールになっている。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか ■6月10日に第1回研究紀要委員会を開催し、6月11日に専任教員及び助手に原稿募集のプリントをメールボックスに配布して行った。学内情報掲示板にも掲示した。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■前年度は、4月に原稿募集を行い、今年度は募集が遅れ、6月の原稿募集となったが、申込件数は、12件と昨年度より2件減少したが、原稿提出締切での辞退は1件と昨年度の7件と大幅に減少した。■Vol.29（2025）は、9件の掲載となり、昨年度より5件増加した。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■募集時期について検討を行う。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■4月の原稿募集は、多忙な時期でもあり、申し込みに影響があるのではないかと考えられるため、募集時期を検討する。			

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	紀要の発行部数について	決裁・意見・委託・上程の別	決算		
P 計画 ↓ D 実施 ↓ C 評価 ↓ A 改善	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 研究紀要は、毎年専任教員及び助手への配布、他大学図書館への郵送等を行っている。近年は学術機関リポジトリでオンラインで紀要論文を読むことができるため、冊子の郵送を辞退する大学が増え、郵送の数も減少している。発行部数は2022年度までは550部、2023年度からは400部を印刷した。2024年度の印刷部数について、委員会で検討する。				
	↓			過程の 評価	
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 学術機関リポジトリを利用し、無料で紀要論文を入手することができるため、学内と他大学図書館への配布をやめ、印刷部数を100部とした。配布は、確認のため委員、執筆 者、希望者のみとした。他大学には、リポジトリの利用をお願いする文書を郵送するこ ととした。			■順調 □遅延 □未実施	
	↓			結果の 評価	
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 印刷費は、400部から100部に減らしたため減少したが、印刷部数が減ったため、単価が 高くなり、大幅な削減にはならなかったが、経費の削減、事務作業の削減につながっ た。			■達成 □前 □維持 □停滞 □後退	
	↓				
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 印刷部数が100部が妥当なのか、確認を行い、次年度以降の印刷部数を検討する。				
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
	次年度 見通し				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画 ↓ D 実施 ↓ C 評価 ↓ A 改善	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
	↓			過程の 評価	
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順調 □遅延 □未実施	
	↓			結果の 評価	
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			□達成 □前 □維持 □停滞 □後退	
	↓				
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
	次年度 見通し				

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたいのか ■「西南女学院大学紀要Vo1.29」の発行を目標とし、編集・発行業務が円滑に進むよう年間スケジュールを作成する。■2018年度から試行期間として開始した「紀要編集・発行日程」で作業を行う。		
		↓			
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■原稿募集が例年より遅れた。■年間スケジュールに沿って紀要原稿の募集、編集を行った。納品され次第国立国会図書館等、郵送が必要な機関への送付を行う。■委員会だけではなく執筆者、査読者にも年間スケジュールを配布し、円滑な編集作業に協力を求めた。		
		↓			
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■編集、発行にあたり、原稿提出までは、スムーズに進んだ。■査読候補者に、図書館からメールで依頼したが、殆どの方から承諾をいただいた。		
	↓				
	A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■その年度によって、投稿申込数や提出論文数が変わるため、次年度も状況を確認しながら、1本でも多くの論文の掲載ができるよう確認や案内を行う。■査読候補者への依頼は、図書館と学科の委員とでさらに連絡を密にして行う。		
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
	次年度見通し				
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

過程の
評価

☒順調
☐遅延
☐未実施

結果の
評価

☐達成
☐前進
☒維持
☐停滞
☐後退

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	公開講座 委員会			
大短委-2024			担当部局等	部局等	事務局	課	庶務課
委員会設置の根拠（規程等）		公開講座委員会規程					
構 成	委員長	岡田 和敏	副委員長	ブラウン馬本 鈴子	藤田 稔子	構成員数	
	委 員	一期崎 直美	岡田 和敏	藤和 太	ブラウン馬本 鈴子		
		藤田 稔子					

委員会の役割に関する事項（概要）	■公開講座委員会は、西南女学院大学及び西南女学院大学短期大学部全体として主催又は共催する公開講座に関する事項を審議する。					
------------------	---	--	--	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	公開講座の開催	シニアサマーカレッジの開催	決裁	本部・事務部長
		(北九州市社会福祉協議会との委託契約)		

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■大学学則第55条及び短期大学部学則第51条に則り、公開講座（シニアサマーカレッジ）を開催する。開催にあたっては、アンケート結果及び周望学舎の要望・意見を基に、講師の選出及び講座形態（講義、演習、実習、見学等）を検討し、受講生の確保（新規・リピーター）に努める。■シニア対象のため、手指消毒、座席の感覚を開けるといった感染予防対策は引き続き行う。		
	↓			
	D 実施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか ■北九州市社会福祉協議会との委託契約に基づき、シニアサマーカレッジ（北九州市立年長者研修大学校周望学舎主催、本学共催）を開催した。■北九州市内在住もしくは市内に勤務している55歳以上の方を対象に8日間で15講座を開講、本学教員14名が講義を担当した。■座席の間隔を十分に開けると感染予防に努めた。		
	↓			
	C 評価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■受講生は39名である。（定員40名に対して応募は43名であったため抽選を行った。辞退者がため最終的には39名となった。2023年度の受講生は34名。）受講後の感想では、「よい」が91.2%、「普通」が5.9%、「よくない」が2.9%となった。■感染予防対策に努め、期間中、受講生間の感染等はなく、8日間の講座が無事に終了した。		
	↓			
	A 改善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■アンケート結果及び周望学舎の要望・意見を基に、講座担当講師の選出及び講座形態（講義、演習、実習、見学など）を検討する。■本学からの案内、市政だより、周防学舎からの紹介がきっかけで受講した人が約6割だった。また、次年度以降の受講について、「また受講したい」「可能であれば受講したい」は100%であった。引き続き、案内及び広報を行い、受講生（新規・リピーター）確保に努める。また講義内容に関しては、リピーターの人にも楽しめる内容を検討していきたい。		
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■シニアサマーカレッジ（北九州市立年長者研修大学校周望学舎主催、本学共催）を開催する。■受講生に好評なレクリエーション、社会見学、受講生と学生が触れ合うことのできる講座形態をとりいれる。		

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	P 計画				
	↓	↓			過程の 評価
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか			
	D 実施				
	↓	↓			結果の 評価
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
	C 評価				
	↓	↓			☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
	A 改善				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画					
↓	↓			過程の 評価	
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか				
D 実施					
↓	↓			結果の 評価	
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
C 評価					
↓	↓			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退	
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
A 改善					
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■北九州市社会福祉協議会との委託契約に基づき、シニアサマーカレッジ（北九州市年長者研修大学校周望学舎主催、本学共催）を開催する。
	↓		↓
	D	実施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか ■第1回委員会では、講座形式・日程・テーマ・予算・担当コマ数等、開催に係る事項を審議した。■委員は本学の専門性を活かしたシニアサマーカレッジが実施できるよう、各学科の教員に講師を依頼した。■庶務課は、シニアサマーカレッジ開催に伴う渉外及び学内の連絡調整を遅延なく行った。
	↓		↓
	C	評価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■委員会は、シニアサマーカレッジに係る事項を審議し、計画どおりに開催した。■受講生を対象にしたアンケートを実施し、第2回委員会において結果検証を行った。■2025年度の開催に向けて、シニアサマーカレッジの受講生にクリスマス礼拝の案内及びクリスマスカードを郵送した。（リピーターの確保）
	↓		↓
	A	改善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■引き続き、本学が社会貢献を果たせるよう、シニアサマーカレッジの開催を前提とした委員会の運営に努める。
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
	次年度見通し		

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	教職課程			委員会
大短委-2024			担当部局等	部局等	教務部	課	教務課
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部会議規則第39条、教職課程委員会規程					
構 成	委員長	木村 政伸	副委員長	塚本 美紀	山路 麻佳	構成員数	
	委 員	一期崎 直美	杉谷 修一	西丸 月美	浜谷 小百合		
		クリステン・サリバン(陪席)	隅田 直孝(陪席)				

委員会の役割に関する事項（概要）

1. 教職課程の編成、講義及び実習に関する事項
2. その他教職課程に関する事項

年度重点項目 [事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	課程申請について	英語学科での小学校教諭二種免許状課程の申	決済	
	教職論集について	教職論集Vol3・4の発刊	決済	

年度重点項目 [事案]以外に委員会 が取り扱った項目[事案]に 関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	教員採用試験について	教員採用試験結果の報告	意見	

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に
関する事項

項目[事案]	課程申請について	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
--------	----------	---------------	----	--

P 計画

当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか
令和6年度に改正された「専科指導優先実施教科に対応した小学校教員養成に係る特例」による
課程申請を行い、英語学科において小学校教諭二種免許状が取得できるようにしたい。

↓

D 実施

計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか
英語学科の教員を中心に、教務課と協力してカリキュラムの作成、担当教員の決定、教
員業績の確認を行なった。

↓

C 評価

実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か
作成したカリキュラム等を基に申請書を作成し、申請書を文部科学省に提出した。

↓

A 改善

評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと
文部科学省教員養成部会による審議が行われ、指摘事項があった場合は期限内に対応する必要がある。

次年度
見直し

次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し
指摘事項への対応及び別の課程申請への準備を行う必要がある。

過程の
評価
■順 調
□遅 延
□未実施

結果の
評価
■達 成
□前 進
□維 持
□停 滞
□後 退

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	教職論集について	決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 2022年度より教職課程の情報公開の手段として、教員の研究業績の積み増しや学生の発表の機会の創出を目的に、教職論集を発刊している。例年は3月に発刊するが、今年度は課程申請に合わせて9月、3月の年2回の発刊を行いたい。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 編集委員会より教職員を対象に投稿の募集を行った。また、学生に対しても教職課程に関するボランティアや学校体験活動などの体験をまとめて投稿するように呼びかけた。課程申請に関する非常勤講師予定者に対しても投稿の募集を行った。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 9月に発刊したVo13は教員2名、非常勤講師（予定者含む）5名からの投稿があった。3月発刊のVo14では教員2名、非常勤講師（予定者含む）2名、学生1名からの投稿があった。教職課程委員以外からの投稿もあり、研究業績の積み増しの目標も達成できた。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 課程申請に向けて、教員の業績が非常に重要視されている。今後も課程申請等に向けて対応できるように、よりよい教職論集が発刊できるように考えたい。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 今後の課程申請や様々な状況に対応できるよう、教職論集の充実を目指したい。			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				
↓	↓				
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
↓	↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

過程の
評価

■順調
□遅延
□未実施

結果の
評価

■達成
□前進
□維持
□停滞
□後退

過程の
評価

□順調
□遅延
□未実施

結果の
評価

□達成
□前進
□維持
□停滞
□後退

委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
	P	計 画			
	↓		↓	過程の 評価	
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順 調 □遅 延 □未実施	
	D	実 施			
	↓		↓	結果の 評価	
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			□達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退		
C	評 価				
↓		↓			
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと					
A	改 善				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
委員会が取り 扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	大学キャンパス・ハラスメント防止・対策				委員会
大短委-2024			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		「大学キャンパス・ハラスメントの防止及び対策に関する規程」第5条						
構 成	委員長	金山正子	副委員長	林裕二	篠木賢一	構成員数		
	委 員	金山正子	杉本有紗	尾上均	林裕二			
		篠木賢一	高崎智子	藤川信幸				
		7						

委員会の役割に関する事項（概要）	キャンパス・ハラスメントの防止のための研修、調査及び啓発活動に関する事項、キャンパス・ハラスメントに関する相談及び問題解決のための手続きに関する事項、調査結果の報告及び対応策の勧告に関する事項、その他キャンパスハラスメントに関する事項を審議する。				
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	ハラスメント防止セミナーの実施	教職員対象（講義式）		決済	学長
	相談員講習会	解決するための手続き等を説明			
	リーフレットの作成	ハラスメントに対する取組み、解決方法の案			
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	ハラスメント防止セミナーの実施	決裁・意見・委託・上程の別	決済	学長
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 委員会の中で、テーマを検討した。学生に対して、指導（教育）とハラスメントの境界線、学生、事務職員、教員のそれぞれの立場でどのようなハラスメントが認定されるのか、ハラスメントにならないための伝え方や言葉の言い換え等を知りたいとの委員からの提案があって、それらの事例などを交え対応できる講師を探すことになった。			
	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 学生課長の方で、2022年度の講師をお願いした福岡ジェンダー研究所の横山美栄子先生にお願いし、2月13日（木）10：40より「大学におけるハラスメントの防止と対策 - 学生指導で起こりやすい問題を中心に - 」というタイトルで講演をお願いした。欠席者には動画配信で対応する。			
	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 当日は教員に加え、多くの事務職員も参加し開催された。概ね達成した。毎年研修を受けているが、その度に新鮮な気持ちで聞いている。横山先生に個人的にそういう話をしたところ、「ハラスメントが仕事ではないので、それで良いと思います。定期的にこういう研修をや受けていくことが必要です」と言われた。引き続き、研修を受けられるようにしたい。			
	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 大学に限定したハラスメント防止に関して、講師を探すのは大変難しい。毎回、同じ講師となってしまう可能性もある。他大学を調べると、業者が作成した動画等をオンデマンド配信で研修会を行っている。今後、本学もその方向で進めていきたい。そうすれば、実習で参加できない教員も安心して開いて空いている時間に視聴できる。視聴後のアンケート提出をもって出席扱いとすることで対応を検討したい。			
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	次年度見通し				

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	P 計画				
	↓	↓			過程の 評価
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	D 実施				
	↓	↓			結果の 評価
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
	C 評価				
	↓	↓			☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
	A 改善				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画					
↓	↓			過程の 評価	
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				
D 実施					
↓	↓			結果の 評価	
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
C 評価					
↓	↓			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退	
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
A 改善					
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 本学の構成員が個人として尊重され、快適な学習、教育、研究及び就労環境の確保を図るため、 キャンパス・ハラスメントの発生を防止するとともに、キャンパス・ハラスメントに起因する問 題が生じた場合、適切な措置を講じる。		
		↓			
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか キャンパス・ハラスメント防止啓発のためのリーフレットを作成し、相談員一覧を UNIPAに掲出し、相談窓口の周知を図った。また、教職員対象の研修を期間・実施し、 キャンパス・ハラスメントに対する理解を深めるように努めた。		過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
		↓			
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ①リーフレットを作成し、4月のオリエンテーション時に新入生に配布。②2025年 2月に学外から講師を招き、「ハラスメント防止セミナー」を開催、③2025年3月 にはハラスメント相談員とハラスメント委員を対象とした講習会を実施。講師は福祉学 科 木村教授。		結果の 評価 ■達成 □前維 □停滞 □後退
		↓			
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 次年度も①ルーフレットの作成（UNIPAに掲示）、②ハラスメント防止セミナー企画・実施、③相 談員講習会を継続する。			
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
	次年度 見通し				

委員会が取り 扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	国際交流				委員会
大短委-2024			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		「国際交流委員会規程」第1条						
構 成	委員長	高崎智子	副委員長	クリステン・サリバン	東彩子		構成員数	
	委 員	溝部昌子	西丸月美	藤和太	クリステン・サリバン			
		角谷尚久 <td>東彩子</td> <td>高崎智子</td> <td colspan="2">藤川信幸</td> <th rowspan="2">8</th>	東彩子	高崎智子	藤川信幸		8	

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の海外研修に関する事項、海外の大学等との国際交流協定に関する事項、外国人留学生の受け入れに関する事項、学生の海外留学に関する事項、その他国際交流に関する事項について審議する。
------------------	---

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	韓国交換留学生の派遣	培材、仁川大学へ各1名、交換留学生を派遣	決済	起案（学長）
	海外大学との国際交流協定	ワイカト大学（ニュージーランド）との国際協定	決済	大学評議会

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	「海外研修A、B」について	業者委託について		
	「認定校」の申請について	「現地視察」無しでの申請について		
	「ラブラブセブ国際大学」との協定について	「派遣協定」について	大学評議会	上程

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	韓国交換留学生の派遣	決裁・意見・委託・上程の別	決済	起案
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 2023年に韓国の培材大学及び仁川大学と交換留学協定を締結し、本学からの交換留学に参加学生の募集を開始。			
	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか 培材、仁川大学と観光文化学科の学生各1名の応募があり、成績、面接の結果、それぞれ応募した学生を交換留学生することが決定。国際交流委員会、人文学学部長、副学長、学長と起案で承認を取る。			
	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 培材、仁川大学とは、はじめての交換留学生派遣の為、先方の大学とのやりとりが大変苦労した。学生からの質問に対しては、その都度先方の大学へ確認し、回答を学生に伝えることで対応。必要書類も先方の大学に確認しながら整え、提出し、無事に受入れ書類の発行まで辿りついた。			
	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 帰国した学生2人に感想を聞いたところ、「楽しかった」とのこと。出発まではいろいろ心配することもあったと思うが、「楽しかった」という話を聞いて安心した。今後は、「国際交流支援室」はできたこともあり、英語の堪能な職員も配置されたことから、スムーズに準備が進められるかと思われる。			
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	次年度見通し				

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	海外大学との国際交流協定	決裁・意見・委託・上程の別	決済	大学評議会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 認定校であったワイカト大学（ニュージーランド）と国際交流協定を結びたいと人文学部長より提案がなされた。国際交流委員会に観光文化学科委員の代行人文学部長に出席をお願いし、ワイカト大学の概要及び国際交流協定締結について説明がなされた。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 国際交流委員会では、人文学部長よりワイカト大学の概要としてオセアニアの中でもトップクラスの国立大学で、学力も高いこと、安全性について、親日的で、学内にクリニックもあり、日本語が話せる教員やスタッフも在籍していることが伝えられた。その上で、本学での留学先の選択肢が増え、評価もあがる説明がなされ、国際交流委員会で審議の結果、承認された。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 大学評議会でも了承され、協定を結ぶことになった。神戸に日本事務所があり、スタッフも日本人であることから、協定を結ぶためのやりとりもスムーズに進んだ。いくつか協定を結んだが、最速で協定締結ができた。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 現在、留学するには、費用がかかることから、まだ、留学希望学生はいないが、今後、希望する学生が出た場合、日本事務所があるため、スムーズな手続きが進められる。選択肢を増やすことだけでなく、学生の成長の役に立つような留学先との協定を増やせればと考える。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
↓	↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか		
	P	計画	
	↓		↓
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか
	↓		↓
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か
	↓		↓
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度見通し			

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	「海外研修A,B」について	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	2025年度より新カリ「海外研修A、B」が総合人間科学の中で始まる。全学部全学生が対象のため、「語学留学（個人での参加）」と「インターンシップ留学（個人で参加）」の部分で、業者の利用を検討し、2025年3月6日開催の国際交流委員会で、了承された。2025年度は「海外研修A」が開講予定。英語学科 サリバン先生（国際交流委員、科目担当者）からの提案による。				
	項目[事案]	「認定校」申請について	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	「認定校」については、条件として「現地視察」が条件としてあったが、経費節減も踏まえ、先方の大学の教育レベル、先方と本学の教育内容において、先方の大学の国、地域、大学周辺の安全性が担保される場合は、「現地視察」が無くても良いことが了承された。また、「協定校」に関しても原則「現地視察」は残すが、条件によっては、「認定校」と同様、「現地視察」が無くても良いことを了承した。英語学科 サリバン先生（国際交流委員）からの提案による。				
	項目[事案]	「ラブラブセブ国際大学」との協定	決裁・意見・委託・上程の別	大学評議会	上程
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	「ラブラブセブ国際大学」は、1年前に広島にあるジャンパンデスクの方が語学研修プログラムを説明に来られた。2025年度3月に英語学科ジッツマン先生が現地視察し、英語学科（サリバン先生）より「派遣協定」について提案がなされた。審議の結果、了承された。なお、現在協定前なので、個人留学として英語学科学生1名が語学プログラムに参加している。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	学生募集				委員会
大短委-2024			担当部局等	部局等	入試部	課	入試課	
委員会設置の根拠（規程等）		会議規則第39条、学生募集委員会規程						
構 成	委員長	今村浩司	副委員長	角谷尚久	笠修彰	構成員数		
	委 員	布花原明子	樋口由貴子	梶原浩介	文屋典子			
		舩越淳子	永田純美	馬本鈴子	塚本美紀			
		八尋春海	古賀玉緒	山路麻佳	入試課長			
委員会の役割に関する事項（概要）		■学生募集に関する事項について審議する。						
年度重点項目 [事案]に関する 事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別			
	入学者選抜説明会	高等学校教員対象の大学及び選抜概要説明			決済			
	高校訪問	高校進路指導部訪問による情報提供及び収集			決済			
	オープンキャンパス（OC）	高校生、保護者向けの大学紹介・授業体験			決済			
年度重点項目 [事案]以外に委 員会が取り扱 った項目[事案] に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別			
	模擬講義への出講	高等学校に出向く形式の大学講義の実施						
	学科独自の募集企画	学科特性を重視した募集活動の実施						
	学生スタッフの推薦	OCで協力してもらう学生スタッフの選出						
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に 関する事項	項目[事案]	入学者選抜説明会	決裁・意見・委託・上程の別		決済			
	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■高等学校教員を対象に大学概要と次年度選抜概要の説明を行ない、本学の教育に興味関心をもってもらい、志願者増及び入学者確保につなげたい。						
		↓						
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■6月下旬にかけ、北九州市（本学）での開催を予定した。 ■本学会場では学内施設見学希望の有無を事前に聴取し、説明会終了後に希望する教員を主な学内施設への案内を準備した。 ■教務が主体となり、学生を前面に出しての本学の教育の取り組みが紹介された。						
		↓						
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■アンケート結果からも、前進したと思われる。						
		↓						
	A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■高校生、高校教員が求める情報を精査し、限られた時間内で情報提供する工夫をする。 ■高校教員から生徒に的確に本学の情報が伝わるような資料（選抜方法のポイントが明確で理解しやすいもの）を提供する。						
		↓						
	次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■志願者増及び入学者確保を目指すために上記改善案を検討・実施する。						

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	高校訪問	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■高等学校進路指導部を訪問し、本学の入学者選抜・学生募集に関する情報を提供するとともに、高校側の情報を収集するなど、本学と高校との関係をより緊密にすることで志願者増及び入学者確保をはかりたい。			
	↓				
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■アドミッション・オフィサーが精力的に福岡、山口、大分の高校を訪問した。特に今年度は北九州地区に力を入れて訪問をした。 ■大学概要及び選抜概要、当該高校出身者の在学状況・卒業後の進路状況報告を予定した。また進学支援に資する本学の取り組みなどの情報提供をした。 ■入試課を中心に事務方で北九州市内の高校に訪問することができたが、回数は1～2回にとどまった。			
	↓				
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■概ね計画通り高校訪問を行えたが、入試課員の異動により事務職員の訪問の回数が減った。			
	↓				
	A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■高校進路指導部教員と、より良好な関係を築くために高校訪問担当者を固定する。また、高校の特性によって訪問の時期・回数など検討する。高校訪問の成果を何とするかを検討する必要性があると感じている。			
	次年度 見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■高校訪問の実施方策を上記改善案に従って行なう。			
	項目[事案]	オープンキャンパス	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■本学での学生生活体験（模擬授業、在学生との交流、施設見学）を通して、学科の教育内容や本学の様子を高校生に理解してもらい、志願者を増やし入学者を確保したい。 ■近年、特に進学意思決定に影響のある保護者の参加を促し、本学への進学を薦めてもらう。			
	↓				
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■6月、7月、8月に全3回、全学的に開催した。 ■無料送迎バスの運行を予定した。 ■3月には全学的にオープンキャンパスを開催した。（高校新2，3年生対象）			
	↓				
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■6月、7月、8月の計3回行った対面型オープンキャンパスの参加者は回復傾向にあるが、コロナ禍前の参加者数には戻らなかった。※人口減少の影響はある。			
	↓				
	A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学科単位や小規模のOCを増やしていく。 ■無料バス送迎（近距離）は次年度も実施する。 ■春のオープンキャンパスは3月末に開催予定。			
	次年度 見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■上記改善案に従いオープンキャンパスを実施する。			

委員会の運営・通常 の審議経過等に係る計画/ 実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■例年、4月～6月の各月1回、合計3回の委員会を開催し、学生募集方策等の審議・検討をしているが、各回で提出される議題が多い。 ■議題の提示後、各学科で十分な時間をかけて審議・検討を行ない、効果的な募集方策を実施したい。 ■年度末（2月～3月）に次年度の計画をワーキンググループで事前に協議を重ねる。		
	↓	↓		
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■学生募集委員会の学科での審議時間を確保できるよう、1か月の期間において次回委員会を開催している。 ■審議・検討の日程が不足すると思われる議題については、前年度3月に学科長に事前提示するものもある。		
	↓	↓		
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■学科で審議・検討された結果は、次回委員会の開催までに入試課で取り纏め、会議資料として作成している。よって、学科内で審議・検討する時間・日程は確保できていると考える。		
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学科で十分に審議・検討が行えるよう、議題の整理や事前提示等について検討したい。			
	次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■当該年度の学生募集委員会で検討した方策に従い、学生募集活動を行なう。		
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	学科独自の募集企画	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	学生募集委員会規程第2条		
	■大学パンフレットに掲載していない取り組みや、パンフレットだけでは紹介しきれない取り組みがある学科では独自の学科リーフレットを作製し、高校生に配布している。次年度からは学部単位で作成し、高校訪問やダイレクトメールにも対応できるようにしていく。 ■学科リーフレットを作製しない学科では、入試部と相談のうえ、作製費用の一部を学科独自の募集企画に充当することができる。			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	教育経費予算配分				委員会
大短委-2024			担当部局等	部局等	事務局	課	会計課	
委員会設置の根拠（規程等）		教育経費予算配分委員会規程						
構 成	委員長	文屋 典子	副委員長	八尋 春海	笠 修彰	構成員数		
	委 員	隅田 由加里	文屋 典子	藤和 太	アンデリュウ・ジッツマン			
		八尋 春海	笠 修彰					

委員会の役割に関する事項（概要）	当年度の確定予算額により、①十分に検討された必要物品及び備品、②実習先への実習謝金、③実習実施に伴う旅費交通費、④専任教員以外の者が行う授業に対する謝金、⑤十分に検討されたその他の経費について審議する。				
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	当年度の確定予算額	予算の申請、執行について		決済	
	前年度の執行報告	執行額について		決済	
	次年度の暫定予算額	次年度5月1日にて確定までの暫定予算		決済	
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	当年度の確定予算額	決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 教育経費予算配分委員会規程並びに実務細則に基づき、各学部・各学部の予算額を下記の通り算定する。 保健福祉学部および短期大学部は、学生一人当たり納付金額×在籍学生数×1/4×12%であり。 人文学部は、学生一人当たりの納付金額×1/4×12%×40%である。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか 会計課より、規程と実施細則を配付し理解を求めた。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 実習費の値上げや物価の高騰により、規程通りの予算を越える学科があった。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 前年度までの執行額は予算内に収まっている学科についても規程の予算額を超えて申請しているため、各科での厳密な予算編成が必要であるとする。			
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
	次年度見通し				

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	前年度の執行報告	決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 各学科の予算を作成するにあたり、前年度の執行額を確認し予算内での予算計画を検討する。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 会計課にて規程および実務細則を配付し理解を求めるとともに、学校会計について説明した。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 予算を超えて提出する学科は変わらない。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 実習費や物品等の値上げにより現在の予算では収まりきれない学科がある。学費の値上げも含め、予算額の算定方法を検討したい。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 経費を削減し、できる限り現在の予算内で執行できるよう各学科に依頼する。今後は学費の値上げも含め、予算額の算定方法も検討していく。			
	項目[事案]	次年度の暫定予算額	決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 教育経費予算配分委員会規程並びに実務細則に基づき、次のとおり算定する。（当年度5月1日現在の学生数を基に次年度の暫定予算額を算定。）保健福祉学部および短期大学部は、学生一人当たり納付金額×在籍学生数×1/4×12%であり。人文学部は、学生一人当たりの納付金額×1/4×12%×40%である。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 会計課が規程並びに実務細則に基づき計算した暫定予算額を提示した。			
	↓	↓			
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 各委員より、暫定予算に基づき予算案を提出してもらったが、予算内に収まり切れない学科があった。				
↓	↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 規程並びに実務細則に基づき予算計画を立てるよう学校会計の理解を深める取り組みを継続する。				
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 規程並びに実務細則の改正及び学費の値上げなど、委員会で意見をまとめた。				

過程の
評価

■順調
□遅延
□未実施

結果の
評価

□達成
□前進
□維持
■停滞
□後退

過程の
評価

■順調
□遅延
□未実施

結果の
評価

□達成
□前進
□維持
■停滞
□後退

委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	P	計 画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 規程並びに実務細則のと通りの計算で予算計画を立てるよう努める。		
	↓				
	D	実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか 提示した予算金額に収まらない場合は、各学科に相談し理解を求めた。		
	↓				
	C	評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 予算計画の変更を含め、できる限り予算金額内で収めるような努力が見られた。		
↓					
A	改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと すべての学科が規程並びに実務細則のと通りの予算額に収まるよう理解を求める。			
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし			

委員会が取り 扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	倫理審査				委員会
大短委-2024			担当部局等	部局等	事務局	課	庶務課	
委員会設置の根拠（規程等）		研究取扱規則第8条第1項及び倫理審査委員会規程						
構 成	委員長	定永 敦司	副委員長	林 裕二		藤田 稔子		構成員数
	委 員	定永 敦司	通山 久仁子		木村 宏和		林 裕二	
		藤田 稔子	菊田 彰夫		新谷 恭明		舛本 敬子	8

委員会の役割に関する事項（概要）	■倫理審査委員会規程第3条に基づき、①研究の実施又は継続の適否その他研究に関し必要な事項、②①に関する問題について学長から諮問があった事項、③研究倫理教育に関する事項、④委員会が必要と認めた事項について審議する。■研究の実施又は継続の適否に関しては、生命科学・医学系研究に関する倫理指針及び本学の研究取扱規則に基づき、倫理的観点及び科学的観点から、当該研究に係る教職員等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審議を行い、意見を述べる。また、当該研究に関連する学会が定める倫理規程等がある場合、研究がその倫理規定に適合しているかを検討する。							
------------------	---	--	--	--	--	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	研究倫理教育	研究倫理講習会の開催・研究倫理に関するリーフレットの作成		
	研究活動に係るガイドライン等の改正	研究に用いられる情報及び試料の保存等に関するガイドラインの改正 個人情報と研究データの取り扱いの改正		

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	研究の実施計画の適否の審議	人を対象とする研究の適切性の審査	報告	学長

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■教職員に対して研究倫理講習会を開催し、研究倫理の理解を深め適切な研究実施を推進する。■2023年度研究倫理講習会アンケート結果を検証し、本学に適した研究倫理講習会を開催する。■学生に対して研究倫理の理解を深める教育を行う。		
	↓	↓		
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■2025年3月13日、研究倫理講習会を二部構成(第一部…外部講師による講演、第二部…倫理審査委員長による「倫理審査申請書類の書き方のコツ」)で開催した。■新入生の「初年次教育において、研究倫理について学ぶ機会を提供した。		
	↓	↓		
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■研究倫理講習会には79名(外部倫理審査委員、事務担当者等を含む)が出席した。欠席者33名については、研究倫理講習会の録画を視聴してもらい、2024年度の研究倫理講習会の受講率は100%となった。■「倫理審査申請書類の書き方のコツ」を実施し、2023年度のアンケート結果を踏まえた研究倫理講習会を行うことができた。		
	↓	↓		
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■引き続き、倫理指針の動向や本学に適した研究倫理講習会を開催し、教職員及び学生の研究倫理の理解を深め、適切な研究の実施を推進する。		
	次年度見直し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見直し ■研究倫理講習会後に実施したアンケートの結果を検証し、本学に適した研究倫理講習会を開催する。 ■新入生の「初年次教育」において、リーフレット「研究活動をする学生・教職員のみなさまへ」を配布する。 ■2026年度に向け、リーフレット「研究活動をする学生・教職員のみなさまへ」の見直しを行う。		

過程の
評価

■順 調
□遅 延
□未実施

結果の
評価

■達 成
□前 進
□維 持
□停 滞
□後 退

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施				
↓	↓			結果の 評価
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価				
↓	↓			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施				
↓	↓			結果の 評価
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価				
↓	↓			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■研究取扱規則、倫理審査委員会規程及び各種指針等に基づき研究計画の適否を審査する。■委員会は、原則として月1回開催する。■申請前の事前相談業務の平準化を進め、申請者・委員の負担を軽減するとともに、委員会での審議を円滑に進める。■研究に関する審査の結果を「審査結果報告書」により学長へ報告する。
	↓		↓
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■委員会を10回開催した。■14件の研究について審議し、通常審査(8件)・迅速審査(5件)継続審議(1件)に分別した。■審査については申請者と面接し、質疑及び助言を行った。■事前相談業務は、学部学科の括りに関係なく輪番であたった。■庶務課は、委員会に関する事務などを遅延なく行った。
	↓		↓
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■通常審査・迅速審査において、新規申請12件、変更申請1件を承認した。また、「審査結果報告書」により学長への報告を速やかに行った。■委員は、事前相談業務を行い、申請→審査→研究開始が円滑に進むように役割をはたした。■事前相談業務は、輪番制としたため、委員の業務にバランスがとれた。
	↓		↓
	A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■研究取扱規則、倫理審査委員会規程及び各種指針に基づく審査を行うとともに、研究者のニーズにあった支援をしていきたい。
		次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■委員会は原則月1回開催することとし、申請と定期的に審査できる環境は整っている。委員会が円滑にウ運営できるよう、委員会開催日程や申請手順等を周知する方法を引き続き工夫する(学内情報ポータルサイト「倫理審査委員会」コンテンツ内の充実)。■引き続き、申請書類の書き方講座等を行い、倫理審査申請者及び委員の負担軽減につなげたい。

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	情報公開	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠	倫理審査委員会規程			
	■本学公式ウェブサイト及び研究倫理審査委員広告システム(厚生労働省運営)に「規則」「規程」「申請手順」「委員名簿」「議事録」等を公開し、研究倫理上の社会的責務を果たしている。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	動物実験				委員会
大短委-2024			担当部局等	部局等	事務局	課	庶務課	
委員会設置の根拠（規程等）		動物実験規程第6条第2項、動物実験委員会規程						
構 成	委員長	伊藤 直子	副委員長	岡部 明仁				構成員数
	委 員	伊藤 直子	岡部 明仁		尾上 均		目野 郁子	
		天本 理恵					5	

委員会の役割に関する事項（概要）	■動物実験計画に関する事項、動物実験計画の実施状況及び結果に関する事項、動物実験施設の使用状況及び実験動物の飼養保管状況に関する事項、その他動物実験の適正な実施に関する事項について審議する。
------------------	--

	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
年度重点項目 [事案]に関する 事項	飼養保管施設の移設・廃止の検討	次年度以降の動物実験実施に係る検討	意見	学長

	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
年度重点項目 [事案]以外に委 員会が取り扱 った項目[事案]に 関する事項	—	—	—	—

	項目[事案]	飼養保管施設の移設・廃止の検討	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	P 計画	当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか ■動物飼育室(飼養保管施設)を設置している9号館については、2023年9月開催の理事会において、建物を解体することが承認されている。次年度以降の動物実験の実施も含め、動物飼育室(飼養保管施設)の移設・廃止について検討を行う。※2024年4月以降、9号館の使用は不可となっている。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■授業科目「人体の構造と機能基礎実習」を担当する教員の意見を踏まえて検討を行った。■関係部署と動物飼育室(飼養保管施設)の移設が可能であるか、資金・施設(設置場所)の両面から検討を行った。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■第2回委員会で審議の結果、動物飼育室の廃止を決定し、2025年度以降の動物実験については実施しないこととした。■2025年1月、動物実験規程第13条の2により「施設等(飼養保管施設・動物実験室)廃止届」を学長に提出するとともに、公私立大学実験動物施設協議会の退会手続きを行った。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 特になし。			
	次年度見直し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見直し ■委員会等の設置及び廃止に関する事項は、大学評議会の審議事項となる。廃止とするか当面休会とするか否かは、学長と相談のうえ、すすめたい。			

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	P 計画				
	↓	↓			過程の 評価
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか			
	D 実施				
	↓	↓			結果の 評価
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
	C 評価				
	↓	↓			☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
	A 改善				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画					
↓	↓			過程の 評価	
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか				
D 実施					
↓	↓			結果の 評価	
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
C 評価					
↓	↓			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退	
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
A 改善					
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■動物実験責任者が申請した動物実験計画が動物実験等に関する法令及び機関内規程に適合しているかどうかの審査を実施し、その結果を学長に報告する。また、動物実験計画の実施の結果について、必要に応じ助言を行う。
	↓		↓
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■動物実験計画に係る審査は未実施である。■動物飼育室（飼養保管施設）を設置している9号館については、建物解体が決定しており、2024年4月以降、使用不可となっている。そのため、授業科目「人体の構造と機能基礎実習」において、動物実験は実施されなかった。
	↓		↓
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■動物実験計画に係る審査の体制は整っている。
↓		↓	
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■第2回委員会で審議の結果、動物飼育室の廃止を決定し、2025年度以降の動物実験については実施しないこととなった。	
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■委員会等の設置及び廃止に関する事項は、大学評議会の審議事項となる。廃止とするか当面休会とするか否かは、学長と相談のうえ、すすめたい。	

委員会が取り 扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]	—	決裁・意見・委託・上程の別	—	—
	項目[事案]に係る規程上の根拠	—			
	—				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	学生個人情報保護委員会				
大短委-2024			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		「学生個人情報保護規則」第14条						
構 成	委員長	マルコム・ロス・スワンソン	副委員長	中原智美		篠木賢一		構成員数
	委 員	中原智美	増本由紀子	坂田郁子		マルコム・ロス・スワンソン		
		高橋幸夫	篠木賢一	高崎智子		小川尚	9	
		藤川信幸						

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の個人情報保護の基本的施策に関する事項、学生の個人情報の適正管理に関する事項、学生の個人情報の開示、訂正および削除に関する事項、学生の個人情報にかかわる不服申立てに関する事項、その他学生の個人情報に関する事項を審議する。		
------------------	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	個人情報の利用目的等の通知	入学予定者に文書を送付、同意書の受領		
	個人情報の取扱い周知	非常勤講師に文書送付（新規委嘱のみ）		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	P 計画			
	↓	↓		
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか			過程の 評価
	D 実施			
	↓	↓		
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
	C 評価			
	↓	↓		
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
	A 改善			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施				☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓	↓			結果の 評価
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価				☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
↓	↓			
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度 見通し				
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施				☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓	↓			結果の 評価
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価				☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
↓	↓			
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度 見通し				

委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 「学生個人情報保護規則」などの学内規則の定めによる適正な取扱いについて周知を図るとともに、審議が必要な事案が生じた場合は、国の定める法律やガイドラインに関する正しい理解のもと、実のある審議ができるようにしたい。		
	↓		↓		
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 審議案件はなかった。		過程の 評価
	↓		↓		□順調 □遅延 ■未実施
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 該当なし		結果の 評価
	↓		↓		□達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 該当なし			
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし			

委員会が取り 扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	情報システム管理運用				委員会
大短委-2024			担当部局等	部局等	事務部	課	情報システム管理課	
委員会設置の根拠（規程等）		情報システム管理運用委員会規程						
構 成	委員長	三浦千賀	副委員長	マルコム・ロス・スワンソン			構成員数	
	委 員	中原智美	上村眞生	船越淳子		高橋幸夫		
		篠木賢一	今村浩司	隅田直孝				

委員会の役割に関する事項（概要）	■ ネットワークを含む情報システムの管理運用に関する事項 ■ 情報セキュリティに関する事項 ■ 情報システム利用者の支援及び違反行為に関する事項 ■ 情報処理に係る研修に関する事項 ■ ホームページに関する事項 ■ その他情報システムに関する事項							
	年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
		■ 6208MacRoomリブレース		6208MacRoomのリブレースを行う		決裁		
		■ Office365導入について		Office365の導入を行う		決裁		
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別			
	■ 情報処理研修		新任教職員及び新入生に対する情報処理研修		決裁			
	■ 情報セキュリティ講座		新任教職員受講必須の情報セキュリティ講座		決裁			
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		6208MacRoomリブレース		決裁・意見・委託・上程の別		決裁	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■ 6208MacRoomは2018年度に導入され、導入されているOSのサポート期限も過ぎている。リブレースを行い最新のOS、機器を導入することで学生の学修環境の整備を行いたい。 ■ 本計画は2024年9月の実施予定であったが、別事案のOffice365導入計画と合わせるため、実施時期を変更した。						
		D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■ 情報システム管理課においてリブレース計画を立て、関係業者と連携し導入作業を行う。 ■ 導入にあたっては3社から見積りを取り、適切な業者を決定する。					
	C 評価		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由とは何か ■ 2024年12月に仕様書の確定、業者決定を行い、2025年3月に導入作業が完了した。					
		A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■ 導入当初はさまざまなトラブルが発生する可能性があるため、授業や学生が使用する状況を確認し、随時対応していく。 ■ 導入業社と保守契約を結び、対応していく。					
	次年度見直し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■ 特になし					

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	Office365導入について	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■ 情報処理演習室のOfficeライセンス形態をスクールアグリーメントからOffice365に変更することにより、経費の削減を図る。 ■ Office365は教職員分のライセンス料を支払うことで、学生も無償で利用できるようになる。			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■ 情報システム管理課において導入計画を立て、関係業社と連携して導入を進める。 ■ 本計画ではOffice365に対応する認証サーバも導入する必要があるため、ネットワーク及び基幹サーバの保守業社（オフィスソリューションズ北九州）を導入業社とした。			■順 調 □遅 延 □未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■ 2025年2月から3月にかけてOffice365の導入作業、認証サーバの設置、情報処理演習室のメンテナンス作業を行い、3月末に利用できるようになった。			■達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■ 導入当初はさまざまなトラブルが発生する可能性があるため、授業や学生が使用する状況を確認し、随時対応していく。 ■ 新入生に対してOffice365が利用できるようにオリエンテーションを実施する。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■ 特になし			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順 調 □遅 延 □未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			□達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■学内の情報サービスを断続することなく提供したい。 ■学生、教職員がよりよく情報サービスを利用できるよう情報システムの充実を図りた			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■情報システムの保守、障害について、情報システム管理課が対応する。 ■学生が情報サービスをよりよく利用できるよう、遠隔授業システムの運用、ヘルプデスクの設置、情報処理演習室のメンテナンスを行った。			過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■発生した障害について、臨時電源での復旧等、サービスの停止時間を極力短くするよう情報システム管理課によって適切な対応が行われた。 ■情報処理演習室、学生用無線LAN、SWITCH Café、フリ-PCスペースは高い稼働率であり、学生サービスの充実の一環として機能した。			結果の 評価 □達成 □前進 ■維持 □停滞 □後退
	↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■ネットワークの中枢である7号館の停電を受け、復旧手順のチェックを行いたい。 ■無線ネットワーク等、学内ネットワークの負荷を定期的に確認したい。				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし			
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	情報処理研修	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	情報システム管理運用委員会規程第2条 ■新任教職員及び新入生に対して、情報処理研修を実施の上アカウント発行を行った。			
	項目[事案]	情報セキュリティ講座	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	情報システム管理運用委員会規程第2条 ■情報セキュリティ講座について、GoogleClassroomを利用し、オンデマンド型の講座を実施した。			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	図書				委員会
大短委-2024			担当部局等	部局等	図書	課		
委員会設置の根拠（規程等）		図書委員会規程						
構 成	委員長	木村政伸	副委員長	マルコム・ロス・スワンソン	山路麻佳		構成員数	
	委 員	前田由紀子	杉谷修一	坂田郁子	マルコム・ロス・スワンソン			
		山路麻佳	木村政伸	垂水典子		7		

委員会の役割に関する事項（概要）	■図書、研究情報及び資料等に伴う予算配分に関する事項を審議する。 ■図書、研究情報及び資料等に関する事項を審議する。		
------------------	---	--	--

年度重点項目 [事案]に関する 事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	図書館資料費予算配分	図書館資料費予算配分の決定	決済	
	購読雑誌見直し	2025年度の購読雑誌の選定	決済	

年度重点項目 [事案]以外に委 員会が取り扱っ た項目[事案]に 関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	図書館資料費予算配分	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2023年度図書館資料費予算総額を、図書費・新聞雑誌費・データベース利用料に配分する。図書費の学科別配分は、学科の特性を考慮し、公平に行う。			
	↓	↓			
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■大幅な外国雑誌の値上がりのため、補正予算で図書費が減額となった。■学科別図書費は、各学科の学生数、学納金額、図書貸出冊数の比率を算出して配分する。■「2024年度大学図書館資料費配分案」、「2024年度短大部図書館資料費配分案」を第1回図書委員会において審議し、承認した。			
	↓	↓			
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■2024年度図書館資料費予算配分は適正に行われた。■円安により外国雑誌の金額が高騰しているため、雑誌やデータベースの見直しが必要となっている。			
	↓	↓			
A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■外国雑誌は年々値上がりする上に、円安でさらに高騰している。データベースも見直しを行い、必要な資料が購入できるようバランスを考えていく必要がある。				
次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■雑誌とデータベースの見直しを行う。■電子ジャーナル、データベースの利用状況の調査を行い、利用されていないものについては、契約を終了する。				

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	購読雑誌見直し	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■購読雑誌見直しは隔年で実施していたが、外国雑誌の高騰により、2024年度も外国雑誌の見直しを行った。円安により外国雑誌の高騰が進んでいるため、各学科で本当に必要な外国雑誌を洗い出す。			
	↓	↓			過程の 評価
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	D 実施	■各学科で学科選定の継続中の購読外国雑誌（電子ジャーナル含む）について、3割の削減を目標に学科での選定をしていただいた。			
	↓	↓			結果の 評価
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
	C 評価	■昨年度に引き続き外国購読の購読数を削減し、前年度より大幅な減額となった。			
	↓	↓			■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
	A 改善	■円安の影響で、外国雑誌の価格の高騰の先が見えないため、利用状況等を調査し、さらに中止する雑誌について検討する。次年度は、和雑誌も合わせて見直しを行う。			
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の 評価
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				
D 実施					
↓	↓			結果の 評価	
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
C 評価					
↓	↓			■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退	
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
A 改善					
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

委員会の運営・通常 の審議経過等に係る計画/ 実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■図書館利用促進のために、委員へは図書館ガイダンスや貸出冊数などの利用状況を報告し、周知を図る。■蔵書の充実・適正化を図り、学生・職員の利用を促進する。■学生の返却遅れについて、教員に理解と協力を求める。		
	↓	↓		
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■2019年度までガイダンスの告知及び受講状況や学科別の貸出数などの学生の利用実績を委員会で見せ、教員への周知を図ってきたが、利用実績の資料を作成することができなかった。■ガイダンスについては、これまでの方法では参加者が集まらないため、新たな企画を検討しなければならなかったが実現に至らなかった。■返却図書 の督促については、アドバイザーの先生方に学生への連絡にご協力いただいた。		過程の 評価 □順調 ■遅延 □未実施
	↓	↓		
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■図書の選定については、全教員の約60%が指定図書を選定して学生の利用促進に貢献した。■図書委員会を開催する回数が少なかったため、図書館の現状についての情報を提供することができなかった。■図書館で企画するガイダンスを行うことが出来なかった。		結果の 評価 □達成 □前進 ■維持 □停滞 □後退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■図書館利用促進のために、ガイダンスを企画し、教員を通して図書館ガイダンスの受講を推進する。 ■蔵書を充実させ、図書資料の利用促進を図るため、教員の選書を推進する。 ■返却遅れの学生に対しては、今後も委員を通して協力をお願いしていく。			
	次年度 見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し		
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			